

# 概 要 報 告

実施期日	7月31日(金)
部会名	中学校 総合的な学習の時間部会

テーマ 『総合的な学習の時間における体験を重視した学習計画』

## 提案概要

### ○取組

- ・本校の総合的な学習の時間「3E」の取組についての提案
- ・年7回(1年生は年5回)、「3Eの日」として、一日日程のまとめどりをを行い、「3Eの日」の前日と翌日に1時間ずつで行う。
- ・1年=全体としてグループで 『HOP』…基礎体験
- ・2年=選択制 『STEP』…応用体験
- ・3年=個人課題解決学習と発表 『JUMP』…個人課題解決
- ・選択は、生徒から希望をとり、教員がグループ分けをして割り振る。
- ・3月に全体発表会を行う。3年生全員が各ブースに分かれて発表する。1、2年生は教員が分けたグループで、2回のサイクルで各ブースの発表と協議会に参加する。

### ○福祉体験

- ・1年…手話講習、車いす・アイマスク体験(校地内)
- ・2年…養護学校での実地体験、駅前でのアイマスク・インスタントシニア体験、点字体験、高齢者施設体験、録音奉仕、特別支援級との交流授業
- ・3年…個人課題解決学習

### ○職員のかかわり

- ・委員会を中心に、学年の枠を取り払い、各職員が各グループの担当となる。
- ・大人が予め先方へ連絡をとったうえで、子どもたちがアポをとる。
- ・引き継ぎは、紙面を基本とし、依頼先からのアンケートを含め職員室隣の倉庫に保管。

### ○成果と課題

- ・8割以上の生徒が満足というアンケート結果。
- ・講師からのアンケートも好意的。継続している協力者(施設・ボランティア)が多い。
- ×費用面(搬送費用や謝礼金などの問題)や日程調整が年々困難になってきている。
- ×紙面のみでの引継ぎは、困難である。
- ×グループ分けでの苦勞(子どもの特性や落ち着きに配慮)
- ×職員間で現在の総合の伝統を継続・伝達することの難しさ

## 質疑概要

質：3年生の課題解決学習の仕方について、校内に残っている生徒はどうしているのか。

答：担当の教員が個別にかかわり、各自がテーマについて調べ学習を行う。図書室から本を持って行って自教室で行う、など。

質：発表の仕方について。また、保護者の参観はあるのか。

答：3年生を教室の数に割り振る(前後半)アナウンスはするが、保護者はあまり来ない。

質：まとめどりの場合、職場体験の事前学習をどうするのか。

答：毎週0時間ではなく、時折入れて対応している。学活などの時間も活用している。

質：謝礼などの予算をどう工面しているのか。

答：講師謝礼の予算が教育委員会から出る。また、ボランティアに多く依頼している。

## 研究協議概要 (7グループで話し合い、その内容をグループごとに発表)

研究協議①総合的な学習の時間における体験活動・言語活動の充実

研究協議②各校の体験的な総合における外部や地域連携の工夫や努力について

- 1班：①交通・防災に関する地域マップの作成の取組や、職場体験等の業者委託について。  
②外部機関へ学習の趣旨や意図を伝えることの難しさと職員連携の難しさ。
- 2班：①防災の取組(授業外や縦割りでの避難訓練、避難誘導など)。  
②地域との距離感の難しさ、職場体験等で起きる学校間で事業所を奪い合う現状。
- 3班：①高齢化による農業体験の中止や校内での職員間の引き継ぎの難しさについて。  
②企業のバックヤード見学やテーブルマナー講座などの可能性について。
- 4班：①職場体験の日数を増やすべきか、減らすべきか。  
②地域との連携を高めていくことも体験学習の一つである(凧作りなど)。保護者に体験や講師の協力を依頼する。また、地域に来てもらう代わりに、子どもたちを地域の活動や行事に出すことも大切。
- 5班：①1年次に福祉体験や環境学習(エコクッキングなど)を取り入れている。  
②高齢化や店長の交代などで受け入れ態勢が整わない事業所が出ている。保護者に協力を依頼。
- 6班：①修学旅行に合わせ、1・2年次の取組が変わる。命をテーマにした学習。  
②講師謝礼が払えずに断る現状。地域連携のため、100ヶ所を超える挨拶回りをしている。
- 7班：①担当者により、内容が変わる現状。  
②救急救命やライフセービング講習を依頼している。2年次に全員の高校訪問を行っている。職場体験の時期や日程についての迷い。

## まとめ概要

- ・総合的な学習の時間の魅力は、『発見』である。自ら判断し、学び方を選び、人と対話して考えを深めていく。つまり、アクティブラーニングによる学びあいがある有効である。能動的対話や体験学習など、総合的な学習の時間の取組がますます重要になっていく。
- ・総合的な学習の時間の始まりは、何が必要かを考える0からのスタートだった。当時を経験していない教員も増え、形骸化する恐れがある。そのため、以下のような取組を進めたい。
  - ①年度当初に年間計画をつくる。
  - ②年間の流れをマニュアル化し、紙面のみならず電子データでの保存・引き継ぎを行う。
  - ③自分の経験や資格、スキルを生かす場所を探している地域の方との連携をはかる。
- ・忙しさや準備・実践の大変さはあるが、総合的な学習の時間には可能性があり、地域連携・生徒指導・職員の連携など様々な視点で大切な取組となり得る。
- ・1年次から学習を積み上げ、3年次に生かされていく3年間のスパイラル学習が重要なポイントである。探究・共同・各教科との連携を生かす学習の場としていくことが大切である。